

平成 26 年 3 月 20 日

甲府市地球温暖化地域協議会 人づくり部会 セミナー

どうなる？どうする？地球温暖化

日 時：2014 年 3 月 20 日

会 場：ぴゅあ総合

内 容：

1. 講演「進行する地球温暖化と異常気象」
講師 平田仁子 (NPO 気候ネットワーク理事)
2. 事例発表
 - ① 甲府市温体協の活動紹介
 - ② 身近にできる省エネ、節エネの取り組み事例

講師の平田さん
秋山会長、田草川副会
長、みどりの学校芦沢
さん



甲府市の温体協で、3月20日に「どうする？どうなる？地球温暖化」と題して、山梨県の各郡市の温体協や一般の人に呼び掛け、セミナーを行いました。このセミナーは2月21日に実施する予定のものでしたが、大雪の為に3月に延期となりました。日時の変更等により参加者が少なくなるのではないかと心配したが、50人余の参加者が集まる。

〈 秋山会長のあいさつ 〉

114cmという観測史上始まって以来の山梨県の大雪の為に、2月のこの会が延期になり3月20日の実施となった。

地球温暖化は、自分自身の会社の社員に説明するのが難しいが、この大雪はその温暖化により異常気象であるということが、身近な危機として体験できたと思う。

今日の講師の平田さんは、国際的な活動をしているので、ここに集まった皆さんと一緒に、最新の国際的な見地にたった地球温暖化の現状を聞くことができると期待している。

〈 講師 平田仁子さんの紹介 〉

1997京都で開催されたCOP3からCOP19までの国際会議にはほとんど参加し現在まで気候ネットワークに在籍活動をしている。2児の母。3月末にIPCCの会議が横浜であるが、それにも参加する予定。

著書として「よくわかる地球温暖化問題」「原発も温暖化もない未来をつくる」

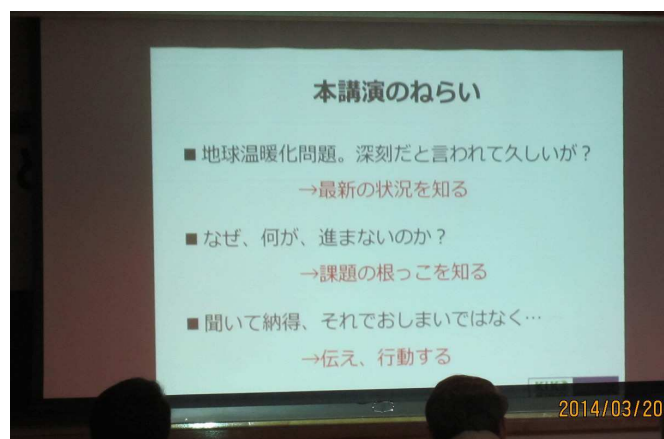


1. 「進行する地球温暖化と異常気象」講演要約

※当日の平田さんの資料を参照ください。

→ はじめに

この会場に来ている皆さんは、すでに地球温暖化ということに関心を持ち、すでに行動もしていると思うが、今日のお話は専門的な話も含めて、難しい話を中心になるかもしれない。それと私たちが日々の現実によどのように活動行動していくのかを考えていってもらいたい。そして、こんなことを実現できたらということも交え、最新状況を皆さんに話したいということで始まる。



—なぜ、地球温暖化対策は進まないのか？

・深刻といわれている地球温暖化、現在でも解決の糸口がみえてない。それは、国際関係の問題、政治や社会といった、科学とまた別次元の様々な問題があるからだ。

—今日は、温暖化はどうなっているの という科学的根拠に基づいて、

・世界では、どのように温暖化の問題に取り組んでいるのか

・日本ではどんな問題意識をもってどのように取り組み、課題はなんだろうか？

上の2点を踏まえて、私たちはどのようにしていったらいいのかを考えてみたい。

→パワーポイントのスライドを見ながら、資料に沿って、話を進めていく。

—世界の現在の状況の説明。

・北極の氷が融けている

・オーストラリア、ニュージーランドは熱波が襲いの異常気象

・イギリスの大洪水、カリフォルニアの大干ばつ。ちょうどCOP19があった2013年の9月のフィリピンのスーパー台風の被害など、世界的にたくさんの異常気象がおこっている。

- ・異常気象の影響だけでなく、動植物が絶滅の危機に直面している。
- ・大気中の**二酸化炭素の濃度が400ppm**を記録。
- ・400を超えたということは大ニュースとなる。**産業革命前は280ppm**だったので、現在は倍近くになってきている。

大気中の二酸化炭素濃度をグラフでみると**産業革命以後は急激なカーブをえがいて上昇**



→ IPCC 気候変動政府間パネル

- ・世界の科学者が集まって、最新の温暖化の研究をしていて、最新の発表があった。
- ・温暖化はどこまですすんでいるのか。これからどこまですすんでいくのか。2013年9月に発表。
- ・温暖化は、各地域の生態系にどのような影響をあたえているのかを 2014年この3月にひらかれる IPCCの横浜会議で発表する。

→ IPCCの第一作業部会から科学的根拠の説明についてのビデオ映像を見る。

- ・温暖化の科学的根拠が、様々なデータを通じてより明確になってきている。
- ・地球の気候システムの異常が、人間の影響によっておこってきているのは明白である。
- ・何千年変わらなかった地球の環境が、様々なスケールで**前代未聞の前例のないことが**、地球にお

こってきている

→ アイスコア（氷の塊を調べる）から観測した二酸化炭素濃度

- ・二酸化炭素の濃度と気温との関係を導き出すことができる。
- ・この30年は地球観測史上気温がもっとも暑い30年となっている。
- ・産業革命の前と比べると、**二酸化炭素の濃度は40%近く上昇している。80万年とい**

う地球の歴史の中で最も高い濃度を記録している。

- ・地球の温暖化の現象は、地球のもっとも寒い所で顕著出ている。
- ・氷河、永久凍土が大規模に消失している
- ・温暖化の影響が一番受けているのが、北極の氷である。
- ・グリーンランドの氷も温暖化の影響を北極と同じくらい受けている。
- ・**海の中も温暖化してきている。**ということが新たにわかってきている。

海の温暖化は地上の温暖化よりももっと深刻で、たとえ地上の二酸化炭素の濃度の上昇が止まったとしても、海の温暖化は止まらず続いていく。それは、海の循環は浅い所と深い所が千年の時をかけて循環している為に、海の温暖化は一度始まったらすぐにはとまらないためだ。



ークライマットモデルを使うことで**海面上昇の予測もはっきりしてきた。**

- ・熱膨張と氷河の・氷床・凍土のひょうしゅつによるものだが 2010年までに19センチの海面上昇があった。これからもっと上昇していく。その為、海面上昇に備えなくてはならない。

→ IPCCの作業部会が明らかにしたこと

地球温暖化は95%以上の確率で明白な科学的根拠に基づいたものである。

と、以下の3つをCOP19後に発表した。

- ① 地球の温暖化がおこっている事は明白
- ② 地球の気候システムに人間が影響を与えている事が明白
- ③ 温室効果ガスを排出し続ければ、さらに気候変動は進んでいき数世紀にわたって影響がおよぶ。地球の気候変動を抑制したければ、相当量の温室効果ガスを減らさなくてはならないという結論に達した。

一地球の気温上昇

2100年までに4.8℃以上になる可能性が高い

一大雪と気候変動の関係は？

- ・将来的には北半球では積雪量は減少するといわれているが、現実に積雪が増えているといわれているのは、気候変動の影響により、**水蒸気が多量に大気中に放出され、雲を増やし 積雪量が増えているのではないかと**言われている。しかし、積雪が増えても大量に融け、水蒸気が大気中に増加し、という悪循環で、**猛暑と大雪の極端な悪循環になっていくのではないかと**予想されてもいる。

将来温暖化が進んでいくと、干ばつも台風も増えていくだろうと予想される。

—世界では温暖化の危機感が高まっている。IPCCの地球温暖化は科学的知見に基づいた現象であるという知見をもとに、動き出している。

・その例として、世界銀行が**4°C Turn Down the Heat** (熱を冷ませ！4°C だ！) という広告を出し、温暖化への危機的状況へ立ち上がっている。

・今の気温上昇が4°Cを超えないようにがんばろうという、世界銀行がレポートを出して訴えている。
・地球の気温は2°Cを超えないようにしようという目標をもって臨んでいるが、すでにかなりそれが難しい状況。今や、気温上昇は4°Cにむかってすでにつき進んでしまっているので、せめて4°Cの上昇にとどめたいとしているが…

—気温上昇2°Cに抑えるのには

2050年までに今出している温暖化ガスを50%全世界で削減しなくてはならない。

しかし、それはかなり厳しい現状、50%削減しても2°Cにおさまるかどうかは、不確実といわれている。それならば、せめて4°Cにおさえたい！と。

—これからの世界の方向

- ① 京都議定書が終わり、国際的な義務に縛られなくなった今2020年からは、アメリカも中国も入って新しい議定書をつくろう、ということを前提に進められている。途上国にも目標を立てていってもらおうといっている。しかし中々進んでいない。
- ② 2020年まではまっていられない。温暖化防止への再生可能エネルギーの利用などの具体的な技術的な検討をはじめようという流れもおきている。
- ③ 国連では、温暖化防止にむけた取り組みを各国でシェアしていこうということが始まっている。

—日本の現状

・日本は、震災後に温暖化防止にむけた取り組みについては国際交渉での自発的発言もなく、消極的になってきている。安倍政権になって鳩山さんがあげた25%削減目標は白紙撤回した。そして阿部首相は暫定的だが、温室効果ガスの新たな削減目標を、2020年までに05年比3・8%減としたいと発表。後ろ向き、気候変動の行動に日本は逆行するものと各国から批判をうける。

・3, 11以来原発の稼働がストップしているので、原発に依存していた日本のエネルギー供給なので、原発がストップしている段階では、高い削減目標値は出せない。原発が動かせたらもっといい値を示すことができるといわんばかりの政権の姿勢である。

・市民社会の役割が大事になってくる、地域で行動をおこそう。

一人ひとりの暮らしの中で、真剣に温暖化防止にむけた取り組みを考えていかななくてはならない。(講演終了)

→質疑応答

質疑応答の時間になると、10人以上から質問の手が上がり、改めて環境問題への関心の高さがうかがえた。ここでは、ひとつだけ質問をとりあげた。

—質問1 2点の質問

- 一つは、ドイツルネッサンス 原発ゼロ エネルギー供給についての具体的な事をしりたい
- 二つは、なぜ、日本の再生可能エネルギーの開発や利用がすすまないのか

—平田さんの答え

① ドイツについて

ドイツは電力の自由化が実現されている。発送電売電の事業が進んでいる 自治体が自らの電気事業を行っている。今でも大きな発電所は残っているが、ドイツの場合は自由に電力会社を選べる。自分で好きな選択ができる。

例えば、ドイツでは多少高くても風力発電を応援したければ、風力発電の電力会社を選ぶといった、複数の電力会社の中から選べるという選択肢があるといった進んだ状況にある。

② 日本はなぜすすまないのか？

日本で電力の自由が進まないのは、発送電がすべて電力会社の独占となっていて、新規に再生可能エネルギー会社が電力供給に参入できないから。しかし、日本でも3, 11の震災以後に発送電、配電の分離をしていこうという電力システム改革の波がおこってきている。2016年を目標に、携帯電話のように電力会社を自由に選べるようにしようという流れになってきている。政権がかわっていてもこの流れがとまらないように私たちが自覚をしっかりとってしていかなければならない。

※ 多くの質問がでたが、1点だけとりあげさせて頂いた。

※

2. 事例 発表

① 甲府市地球温暖化対策地域協議会の活動紹介

甲府市温体協 会長 秋山さんより

② 「地球大好き芦沢発電所」

みどりの学校 代表の 芦沢さんより、ご自宅での様々な省エネ、節エネの取り組みを紹介してもらった。まさに、皆さんが身近にできるものを、芦沢さんはご自宅の中に色々取り入れており、生活の中での省エネの工夫を見せてもらった。参考になることがいっぱいであった。早速、自宅に帰り取り組んでみたいというお話も参加者から頂いた。

③ 「環境にやさしい園づくり」

山宮保育園 岸より、保育園で取り組んでいる活動を報告。

—石井副会長の終わりの言葉では、
「やるなら今でしょ！！」と締めくくりをして頂いた。



皆様お疲れ様でした。美しい地球を取り戻すためにこれからもがんばっていきましょう♡